MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．１０．３　発行元
第 518 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

米澤穂信「可燃物」

７月に文藝春秋から米澤穂信の『可燃物』が出た。新作が出るたびに話題として取り上げられる米澤穂信。「今回はどんな作品なのだろうか？」という期待が膨らむ。「本格ミステリ×警察」と帯には書いてある。

県警・葛警部シリーズ

『オール讀物』に連載した五編を集めた短編集である。米澤穂信は短編も得意としているので、長編と同等レベルで読者を楽しませてくれる。今回は新しいシリーズものとして「群馬県警捜査第一課・葛(かつら)警部シリーズ」を作り上げたようだ。東京・警視庁でないところが良い点なのかな？

そして、葛警部のプライベートな部分には一切触れていないのが特徴。とかくキャラクター重視の昨今のミステリの中にあって、本書の描き方に私は大賛成である。事件そのものの謎を取り上げるのがミステリであって、探偵役の家庭的な苦労や個人的な悩みの吐露などは必要のないこと。「本格ミステリ」の考え方として本書は正しい流れ。

捜査の中の僅かな疑問点

捜査が行き詰まった時に「どこに着目すればよいのか？」とか、簡単に結論に飛びつきたくなった時に「果たしてこれでいいのか？」とか、事件の中のささやかな疑問点に拘って考えていくことが本書の一番の中心である。

葛警部は堅物で真面目。社交的な部分での人望には欠けるものの、捜査能力に関しては周りからの信頼を得ている。彼が「納得できない」と言えば、周りはその意に沿った捜査を展開してくれる。

第一話『崖の下』で考える…

第一話は『崖の下』。スキー場でスノーボードをしていたグループがバックカントリーに出て行方不明になった。捜索隊が組織され付近を探したところ、崖の下に二人が転落していることが分かった。一人は大怪我で救急搬送。一人は死亡確認された。頸動脈の部分が刺されていて失血死したようだ。

殺人と考えると疑問点が残る。崖下に転落した二人に他の人物が近づいたような跡は雪上には見つからず、なおかつ首を刺した凶器を発見できなかった。

葛警部は二人が持っていた持ち物を中心に考えてみるのだが…。「意外な凶器」が本編のテーマ。警部の分析の道筋がポイント。

表題作『可燃物』で考える…

表題作の『可燃物』は連続放火事件を扱っている。太田市でゴミ集積所が燃える火事が４件連続で起きた。いずれも大事にならずに鎮火したが、県警はこれを重大な事件と見なして葛警部に捜査を命じた。

発生場所、時間帯、天気…と共通項を調べていく。現場にはねじって棒状にしたチラシ、または雑誌のページの燃え残りがあった。次の事件に備えて警戒を強めるのだが、パタッと放火はストップした。

地域の情報を集め、疑わしい人物の行動を確認し…最後にたどり着く警部の推理の結論は…。

一見、地味な作品に見えるのだが…

読み終えて、「米澤穂信作品にしては地味な仕上がり」と思ってしまうのだが、彼が「警察小説」の形式に取り組んだことに意味があるのだと思う。今はやりの派手な警察小説ではなく、古典的な、クロフツのフレンチ警部もののような「本格ミステリ」としての警察小説にしたかったのではないかと感じる。この後シリーズが続くのかどうか…。

周木律「眼球堂の殺人」

２０１３年講談社ノベルス。メフィスト賞受賞作品。この私の『ミステリ読書案内』の第５１６号でシリーズ第二作の『双孔堂の殺人』を先に紹介してしまっので、大急ぎで第一作の本書を読んだ。満足のいける出来だったので取り上げてみた。既に『双孔堂の殺人』を読んでいたので、登場人物、物語の流れが予想でき、かえって面白く読めたような気がする。読む順番はそれほど問題にしなくてもいいのかもしれないと感じた。「犯人当て」として考えると…。使いづらいかなぁ？？

放浪の数学者・十和田只人が、付き纏っているジャーナリスト・陸奥藍子と共に、山奥にある天才建築学者・驫木煬の「眼球堂」を訪ねる話。「眼球堂」はとても奇妙なつくりの邸宅で、またまた平面図・立面図が登場してくる。これがトリックに直結しているからやっかいなのだ。驫木に招待された著名な学者五人、編集者、そして使用人。閉じられた特殊な環境の中で一晩過ごすと、１０ｍの高い塔の先に死体が突き刺さって…。しかし、残りの人達がいる場所は密室状態に近く、傍に行って確かめることは不可能。出口には鍵がかかり、電話は不通となり、後はひたすら推理を巡らすだけ。何もできないままに二晩目が明けると…。今度は二人の人物の死体が。現実にはとても有り得ないような話なのだが、「本格謎解き」として楽しむことができる。